

- 講演タイトル:対話による部活指導
- 受講者 :行政区内の、小中学の部活指導者24名
- 時間 :120分
- 狙い :①体罰を、他人事としてではなく、自分ごととして考えてもらう
②指導者同士、横のつながりを作る
③指導者同士、課題や成功事例のシェアをする
④終了後、スモールステップの行動計画を持ち帰る

- 当日の流れ:20分・・・教育委員会より、体罰のガイドラインについての説明
10分・・・受講者どうしアイスブレイク
10分・・・演習の説明
30分・・・グループディスカッション
20分・・・全体討議 (ファシリテーション)
15分・・・ピアコーチング
15分・・・キャッチボールによる、対話の可視化

- 演習 :NHKの『クローズアップ現代』で、当行政区の体罰抑止に向けた取り組みが紹介されていると仮定した場合、カメラはどんな取り組みや関係者のコメントを紹介しているのかをグループで妄想する。全体でシェアする中で、その妄想の中にある本質的な視点を見出し、現実的な取り組みへと構想化する。

2014年○月▲日 NHK『クローズアップ現代』 “対話による部活指導で、体罰ゼロへ！”

●●●の挑戦！



スタジオでは誰がどんなトークをしているのか

象徴的な練習の光景、または対話とはどのようなものか。

●●●では、どのような定期会合が持たれ、誰が参加し、何が話し合われているのか。



生徒たちは、指導者たちの何が変わったといっているのか。



妄想	内容	構想への手がかり
指導と学習者の反転体験	生徒に指導プログラムを計画させ、指導者もその日は一緒になって練習をすることで、互の理解につなげている様子を映している。	極めて現実的な対策だと考えます。指導者と学習者の固定化した関係を疑う姿勢を持たせることで、生徒たちはその後、指導者の指示にある背景を読み取り、主体的な練習態度へと変容することが期待できます。
練習時間の厳格化	始まりと終わりの時間を厳格化することで、遅刻者を減らし、練習態度にメリハリをつき、結果的に練習メニューを余裕を持って遂行することができ、生徒、指導者ともに精神的に余裕を持つことができる。部活用のチャイムが有り、一斉にはじめる。	時間に対する意識のゆるさが練習態度に現れるという仮説のもとに出された意見です。時間に対する概念が変われば、家庭生活にも良い影響が現れるという期待が持てます。個々の練習メニューを短時間に区切り、集中力を高めるという意見も聞かれました。
指導員とクラブ顧問(教員)とのコミュニケーションを増やす	顧問から、学校での生活に見られる生徒の様子を事前に聞く(または事後でも)ことで、生徒の練習態度への理解につながり、指導に余裕が持てる。	毎日だとお互いに厳しい面もありますが、週に1回でも時間を決めてミーティングを持つことは、現実的な対応だと思われます。また、選手と指導員の交換日記なども、教員が目を通すことで、教員の生徒理解にもつながります。
プロの指導員による指導が予算化される	一流のプレーヤーからスポーツに対する姿勢を聞くことで、生徒たちに刺激を与へる。	頻度にもよりますが、複数校をまとめてプロの話聞く会を開催するのは可能でしょう。また、そこで、一流の選手から、体罰に対するネガティブなコメントを発してもらうことで、指導員に「2流とみられたくない」という気持ちが働き、体罰への抑止にも繋がります。
指導員同士の交流機会を増やす	様々な考えを持った指導員の価値観に触れることで、勝利至上主義の呪縛から解放されることがあるのではないかと。	クラブ指導に限らず、様々な価値観に触れることは、教育の幅を広げる意味で、有効かと思われます。
〇〇の指導員は、日本一生徒のいいところを見つけるのがうまい	指導員に対し、全部員のいいところを、一人3つ以上言えるかどうか、またはどんな点が成長しているかをヒアリングする行政の抜き打ち調査がある。答えられないとペナルティ。	実際に制度化するのはかなりハードルがありますが、指示命令禁止の部活指導から、あるものを伸ばす部活指導への意識付けができそうな気がします。もちろん、持っていないスキル、足りないスキルを獲得させるのも指導者としての役割ですから、その両方が書かれた交換ノードなどの制度があると良いかもしれません。
「勝つ」という言葉を禁止してる	勝負にこだわるから、体罰が起こる。一層のこと、練習においても、「勝つ」という言葉を禁止する。	これは現実的ではありませんが、言葉の使い方で空気を変えるという、当妄想の本質を捉え、「勝つ」という代わりに「力を出し切る」という言葉に代替する考えはあると思います。
キャンプなど、部活以外の生徒理解の場が制度化されている	キャンプなどのレクリエーションで、練習では見られない生徒の特徴を発見する機会となり、指導員の生徒理解につながる。	某有名監督が「選手のためだと思って体罰をする指導者はいない。体罰は、指導者の思い通りのプレーをしないうらだちからくるもの」とコメントしていることから、競技以外で選手とコミュニケーションをとり、人間関係を形成することは、間接的に体罰抑止につながる可能性があります。
学校外の施設が使える	学校の施設が手狭な場合、公園や空き地などを利用することが有り、他の利用者に配慮が必要となる。指導者が神経を尖らせている時に、ルールを守らない生徒がいると厳しく当たることがあるため、公的な施設を行政が部活に開放することで、指導者のストレスを軽減する。	個別案件として対応することで指導者のストレスを軽減することはかのだと考えます。
フィーをなくして、指導員を増やす。	指導者へのフィー制度が、逆に指導者間で差別意識をもたらしている側面があるので、フィーをなくし、オールボランティアでやってもらうことで、指導者を増やす。	指導者の方にも、色々な考え方があられるものと思われますが、「フィーは発生させるべきもの」という前提を疑い、さらに討議を進めることで、新しい視点が出てくる可能性があります。

ピア・コーチング

1. 目標の設定

- 本日討議したことで、たった一つでもいいから、明日から試みてみたいことはなんですか？
- その目標を達成するためのモデルとなるような指導者は誰ですか？
- その対話的指導ができると、その先、どんなことが可能になりますか？
- 逆に、ずっと現状のままだと、あなた自身、または子供たちにはどんな不都合がありますか？

2. 現状の把握

- 先程設定した目標について、100%達成したときのイメージからすると、現在は何%くらい出来ていますか？
- いままでそれでうまくいっている部分はどんなところですか？

3. ギャップ要因の検証

- 何があれば、100%に近づきますか？3つ挙げてください。(例えば、情報、人脈、時間、モノ、金他)
- どんな環境を整えば、目標に近づきますか？

4. 行動計画

- 時間やお金の制限がなければ、どんなことをやってみたいですか？
- もしも、指導者のモデルとなる人があなたの立場だったら、どんなことをすると思いますか？

5. 今週の行動計画

- 今まで発言したことを踏まえて、まず今週できることはどんなことですか？

ありがとうございました。

- とても良い研修プログラムだと思います。是非、継続してください。
- 体罰のマニュアルを今後の活動に生かします。
- 自分に足りないものを確認することができました。今後の指導に役立てたいと思います。
- 佐々木さんからの講義を中心に聞きたかった。
- 同じことで悩んだり、工夫したりしている仲間がいることを知って安心した。自分の力不足だと思っていたため、力不足だけでなく、他のコーチの方も経験しているんだと知ることができた。
- これまでの自分の指導を見つめ直す、良い機会になりました。
- 自分が日頃自問自答している問題点とは研修内容が一寸異なっていましたが、コーチの役目が「育むこと」にあると教えられ気が楽になりました。
- 様々な種目の指導者の方の教育論が聞けて良かった。この話を実際に顧問の先生と聞いて、具体的に部活の練習内容方針を話し合いたいと思った。
- 色々な面で活動している様々な年齢の方の意見が聞けて良かった。
- オリエンテーション方式も良いが、グループ分けの際、体育会系文化系に分けた方がポイントが絞りやすい。
- 指導の変化を考えるきっかけになりました。自分をコントロールすることが大事だと再確認出来ました。ありがとうございました。
- 運動系ではないので、体罰的な事は今までありませんでした。この研修を受け教えるのではなく、育てるのが教育という事が一番心に残りました。今度、個人カードを作ってみようと思います。
- とてもユニークな講演内容だったと思います。教えるだけではなく、あるもの、持っているものを引き伸ばす教育というものを見直し、子供たちと接していきたいと思いました。
- 他の指導員方のご意見等が聞けて良かったです。
- 良い部分を伸ばすのがコーチング。体罰根絶マニュアルの存在自体がコーチングに反しているのでは？
- 今回この研修で、他の学校の先生方とお話ができて、自分が考えていた指導の仕方について確認やまた、別の指導法を知ることができました。この研修は二度目なのですが、前回とは違う形で受けられ、よい時間になりました。
- 佐々木先生の講義はとてもわかりやすかったです(印象も良かったです)。コーチングのあり方、考え方について理解できました。
- 指導と体罰、コーチング方法による子供の成長など、具体的な話が聞かれたらと思います。
- 初めてこのような研修に参加しましたが、指導する立場としての今後の参考になりました。
- 対話が大事とは思っていても、外部指導員は教員と違い、練習外の時間を生徒と交わることは難しいのですが、方法論がないわけではないことが、他の方々との会話でみえてきたことが、よかったと思う。